



部会だより

コロイドおよび 界面化学部会

オンライン開催!

第71回コロイドおよび界面化学討論会へのお誘い

はじめに

第71回コロイドおよび界面化学討論会は、当初、9月14日(月)~9月16日(水)の日程で、東北大学・川内北キャンパスおよび仙台国際ホテルにて開催の予定でした。仙台での開催は、杉本忠夫先生(東北大学名誉教授)が実行委員長をされた2002年までさかのぼります。仙台でのコロイドおよび界面化学部会に関わるビッグイベントとしては、2012年5月に栗原和枝先生(東北大学教授)をChairとして開催した14th International Association of Colloid and Interface Scientists, Conference (IACIS2012)が記憶に新しいかもしれません。しかしながら、今年に入り新型コロナウイルスが世界的に流行し、日本においても緊急事態宣言が全国に発令されるなど、かつての日常生活からかけ離れた状況にあります。今年の討論会開催については、中止や延期も含め、様々な可能性について、部会内で議論を重ねました。その結果、新型コロナウイルスに係る社会状況や学会の社会的責任等を考慮すると、仙台での現地開催は困難であると判断せざるを得ないものの、コロイド・界面化学の継続的な発展や人材育成のために何らかの形で開催するべきであるとの結論に至りました。そこで今回の討論会は、初の試みとして「オンライン開催」の形で開催することといたしました。新しい形での討論会開催ということで、皆様には何かとご不便をお掛けすることとなるかと存じますが、有意義な討論会となるようにご協力を何

卒よろしくお願い申し上げます。

主題:「先端計測・解析がコロイド・界面の見え方を変える」

コロイドおよび界面化学は私たちが健康に社会生活を営む上で、もはや欠かせない学問・技術となっています。しかしながら、コロイド粒子の安定分散1つを例にしても、「匠の経験・技」によらざるを得ない“ブラックボックス”がいまだ多く存在します。一方で、先端計測・解析の急速な進展に伴い、コロイド界面現象をナノ・分子レベルで明らかとする試みが進んでいます。本討論会では、「先端計測・解析がコロイド・界面の見え方を変える」を主題とし、「匠の経験・技」をサイエンスで語る機会を設けます。東北大学青葉山新キャンパスに建設中の「次世代放射光施設」はコロイド・界面の“ブラックボックス”を可視化するツールとなることから、その学術・産業・社会的な利活用に関する討論も期待しています。

討論会の概要

一般研究発表は、例年どおり、総合、分子集合体、組織化膜、固体表面・界面、微粒子とその分散系の科学、応用・開発、ならびに国際セッションの構成で、それぞれについて「オンライン発表」を受け付けます。また、若手研究者からの発表には「オンライン学生講演賞」、「オンライン優秀講演賞」が設けられる予定です。多数のご応募を期待しております。

本討論会の目玉の1つである総合講演

は、9月15日午後に「ライブ配信」いたします。本部会の部会長を務められた栗原和枝教授には「材料科学、物性研究のための表面力測定(仮)」として、高田昌樹教授(東北大学)には「次世代放射光施設が拓く、データ科学時代のコロイド科学」としてそれぞれご講演いただきます。また、科学奨励賞の日下靖之氏(産総研)の受賞講演も企画しています。例年は総合講演の後、引き続き懇親会が開催されますが、今年は断念せざるを得ません。牛タンを囲み、東北の地酒を交わしながら仙台ならではの夜の議論の場をご堪能……は、またの機会に……。

公募による一般シンポジウムとして、「平衡・非平衡界面の科学と技術」、「生物資源・環境分野のサステナビリティとコロイド界面科学」、「分散・凝集理論の新潮流—革新モデルの構築をめざして—」、「コロイド・界面化学への次世代放射光の期待」を実施予定です。

おわりに

初の「オンライン開催」について、詳細は、部会ニュースレター会告やホームページをご確認下さい。

https://colloid.csj.jp/div_meeting/71st/

発表申込締切は7月7日(予定)で、広告・オンライン企業展示も募集中です。是非この機会に部会員以外の方も含め研究発表をご検討下さい。

〔第71回実行委員長 蟹江澄志(東北大多元研)、討論会委員長 飯村兼一(宇都宮大工)〕

© 2020 The Chemical Society of Japan